



ETK0043001E

スロット切断型後分岐用クロージャ
MJC-FH3-BB
接続工法書

▽ご使用前に、この工法書をよくお読みの上内容をよく理解してから作業して下さい。

▽お読みになった後（工事終了後）も、工法書は大切に保管して下さい。

 住友電気工業株式会社

安全上のご注意 ~安全にご使用いただくために必ずお守りください~

この工法書には、人身への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

本クロージャに関する安全上のご注意	
<p>危険</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が極めて高いことが想定されます。</p>	
<p>警告</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。</p>	<p>・本クロージャは、落下などのないよう確実に固定してください。</p>
<p>注意</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性および、物的損害のみの可能性が想定されます。</p>	<p>・刃物などのご使用には十分注意してください。</p> <p>・光ケーブルの固定を確実にを行うために、適正なケーブル把持器具をご使用ください。</p> <p>・適正なグロメットおよびガスケットをご使用ください。浸水の原因となります。</p> <p>・締め付けトルクの規定をした作業は、その規定値を守って作業をしてください。浸水やクロージャ破損の原因となります。</p> <p>・本クロージャは防水タイプですが、海中・河川の水中・下水道などには設置しないでください。</p> <p>・塩害地域での使用の場合は、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。</p>
<p>お願い</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の性能を発揮できない可能性および、機能停止をまねく可能性が想定されます。</p>	<p>・乾燥剤が必要な場合は、別途ご用意ください（性質上、長期保管できないため）。また、乾燥剤は光ファイバ心線に圧迫を与えない位置にお入れください。</p> <p>・光ファイバ心線に関しては、許容曲げ半径「R≧30mm」をお守りください。</p> <p>・融着作業に関しては、ご使用の融着接続機添付の取扱説明書をご覧ください。</p> <p>・本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換や追加を必要とする場合がありますので、事前に弊社・営業担当までご相談ください。</p> <p>・設置後、長期間（半年～1年程度以上が目安です）経過した後の、解体・再組立作業を行う際は、念のためグロメット（閉塞栓）・ガスケットをあらかじめ、別途ご用意いただくことをおすすめします。</p>

スロット切断型後分岐用クロージャMJC-FH3-BB

作業工程フロー

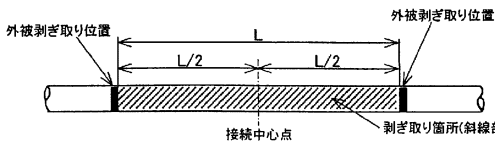
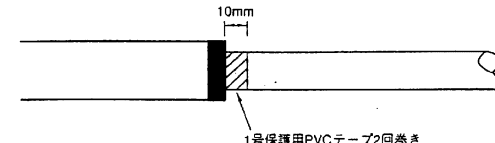
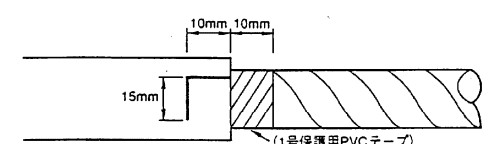
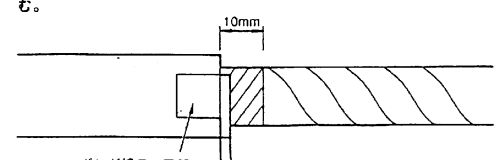
項目番号	作業工程	項目番号	作業工程
1	ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り	14	分岐ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り
2	アースボンド線の取り付け	15	アースボンド線の取り付け
3	ケーブル外被の研磨・清掃	16	ケーブル外被の研磨・清掃
4	ケーブルの引き寄せ	17	スロットの切断とテンションメンバの口出
5	識別チューブの挿入(ｽﾌﾟﾗｲﾝｸﾞ)	18	識別チューブの挿入
6	スロットの切断	19	ケーブル把持金具の取り付け
7	ケーブルのたぐり寄せ	20	ケーブルへのグロメット取り付け
8	スロットの切断とテンションメンバの口出	21	心線の融着接続
9	ケーブル把持金具の取り付け	22	心線の収納
10	ケーブルへのグロメット取り付け	23	スリーブガasketの取り付け
11	スリーブ(上)の取り外し	24	スリーブ(上)の取り付け
12	ケーブルの取り付け	25	ガスフラッシュテスト
13	通過心線トレイへの収納		

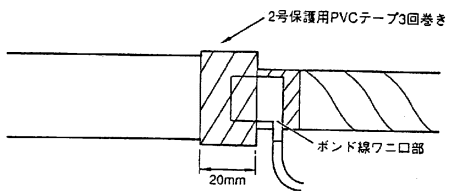
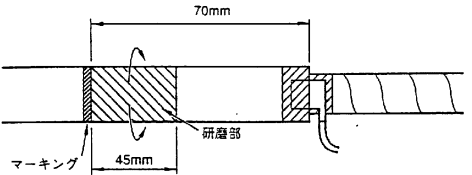
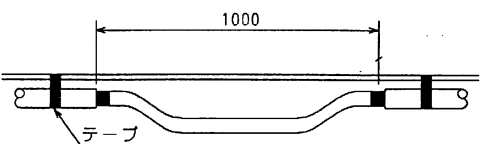
主な構成部品一覧表

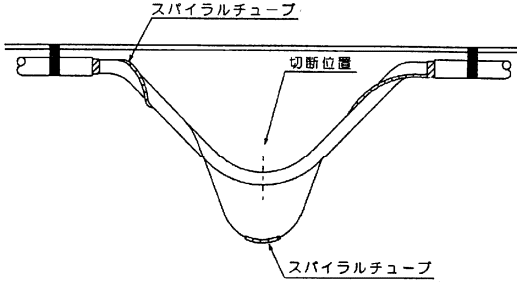
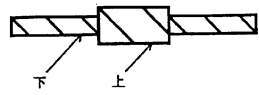
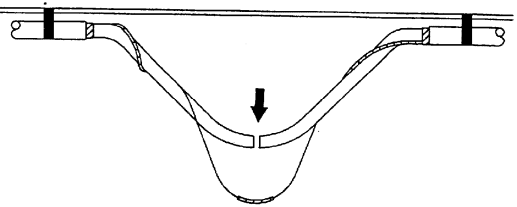
項	部品名	数量	備考	項	部品名	数量	備考
1	スリーブ(上・下)	1組	組み込み	10	アースボンド線	必要数	添付
2	バンド(長・短)	1組	組み込み	11	識別チューブ(ｽﾌﾟﾗｲﾝｸﾞ)	1組	添付
3	ガasket	1組	添付	12	識別チューブ	1組	添付
4	通過心線トレイ	1個	組み込み	13	作業ラベル	1枚	添付
5	余長収納トレイ	9枚	組み込み	14	サンドクロス #240	1枚	添付
6	保護カバー	1組	組み込み	15	1号保護用PVCテープ	1巻	添付
7	マジックテープ	3本	組み込み	16	2号保護用PVCテープ	1巻	添付
8	ケーブル把持金具	必要数	添付	17	シリコングリス	1個	添付
9	グロメット	必要数	添付	18	工法書	1部	添付

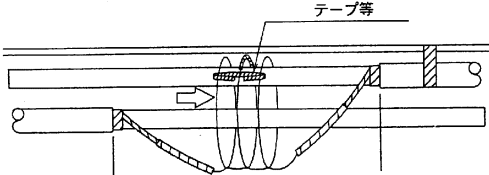
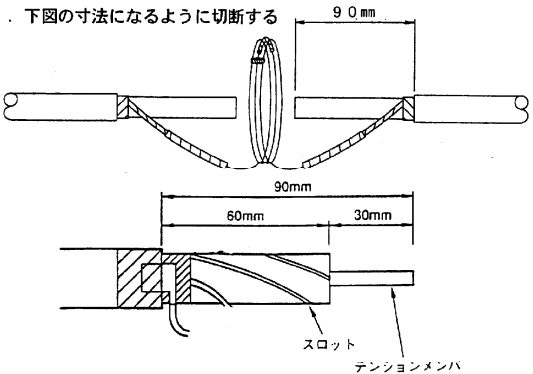
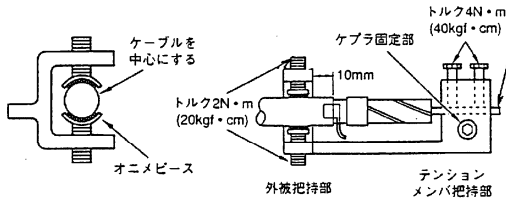
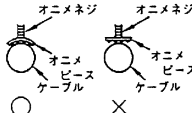
使用工具一覧表

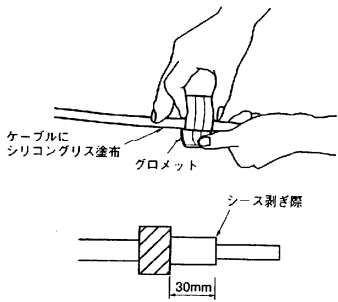
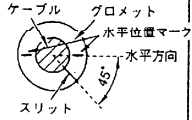

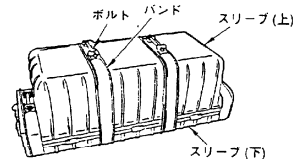
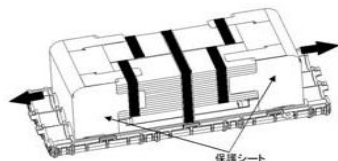
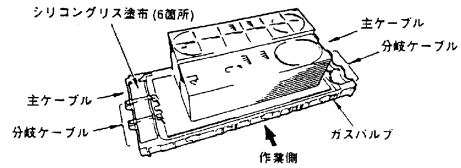
項	工具名	備考	項	工具名	備考
1	ボールポイントドライバー	呼び 5	6	ペンチ	
2	トルクレンチ	2~4 N・m以上 (20~40 kg f-cm以上)	7	ラップカッター	
3	トルクレンチソケット	呼び 5	8	コンベックス	2m用
4	ニッパ		9	ケーブルカッター	
5	NTカッター		10	ワイヤークリッパー	

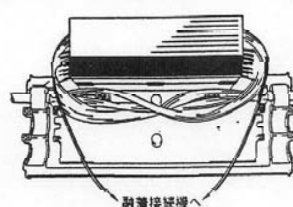
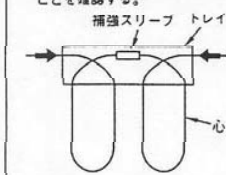
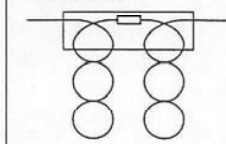
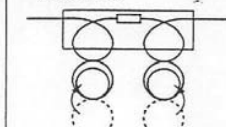
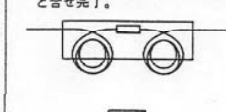
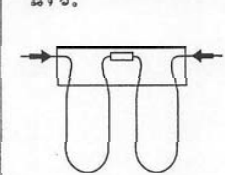
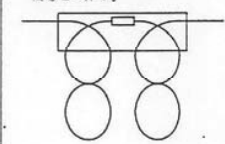
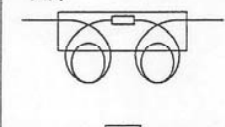
項目	作業手順	備考				
1	<p>ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り(通過心線)</p> <p>1. 接続中心点を基準に、左右にそれぞれL/2の位置で外被にマーキングする。(L: シース剥ぎ取り長)</p>  <p>※剥ぎ取り長Lは、通過心線収納長によって異なります。Lについては、下表を参照ください。</p> <table border="1" data-bbox="1411 494 1724 574"> <tr> <td>通過心線収納長</td> <td>L</td> </tr> <tr> <td>3000mm (ただし4cテープ120c以下)</td> <td>4400mm</td> </tr> </table> <p>2. マーキングの位置で外被を剥ぎ取る。</p> <p>3. 外被剥ぎ取り際に、10mm幅のPVCテープを2回巻き付ける。(LAPシースの場合のみ)</p> 	通過心線収納長	L	3000mm (ただし4cテープ120c以下)	4400mm	<p>※マーキングは白マジック又は色テープで行うと良い。</p> <p>※スラッグ長は含まない</p> <p>※通過心線14の収納長は3m以内にする。</p> <p><使用工具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケール(2m) ・ラップカッター <p>※ケーブル内部の光ファイバには充分注意する。</p> <p><使用工具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ・ニッパ
通過心線収納長	L					
3000mm (ただし4cテープ120c以下)	4400mm					
2	<p>アースボンド線の取付(LAPシースの場合のみ)</p> <p>1. ケーブル外被にアースボンド線取付用の切り込みを入れる。(寸法は下図による)</p>  <p>2. 切り込み部のシースをニッパ等で引きおこす。</p> <p>3. 引きおこしたLAPシースにボンド線のワニ口部を取り付けてペンチで挟む。</p> 	<p>※ケーブル内部の光ファイバには充分注意する</p> <p>※LAPテープが切れないように引きおこす。</p> <p>※ボンド線の取付方向に注意。 (図のように取付)</p>				

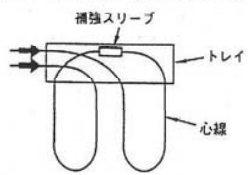
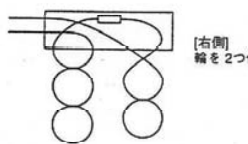
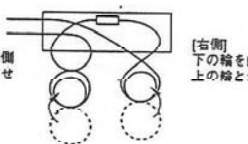
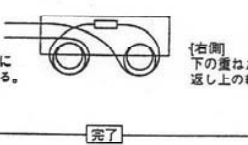
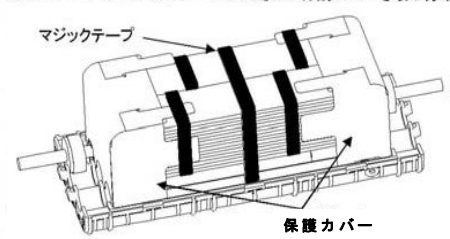
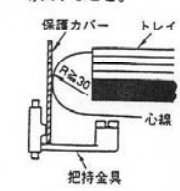
項目	作業手順	備考
2	<p>4. ボンド線のワニ口部に2号保護用PVCテープを3回巻き付ける。</p> 	<p>※テープの巻始めはワニ口の下に入れる。</p> <p><使用工具></p> <p>・ハサミ</p>
3	<p>ケーブル外被の研磨・清掃</p> <p>1. 外被剥ぎ取り際より70mmの位置にマーキングをして、マーキングの位置から約45mmの幅(ボンド線側)を#240サンドクロスで外被を円周方向に研磨する。 研磨後はアルコール等を用いて、削りカス等を取り除くように清掃する。</p>  <p>2. 上巻を1号保護用PVCテープ際より除去する。</p>	<p>※研磨は必ず円周方向に行う 水平方向には絶対しない (浸水する場合がある)</p> <p>※ケーブル外被に傷がある場合はなくなるまで研磨する。 サド加取#240使用</p> <p>※テープ心線に傷を付けないよう細心の注意を以て行う。</p>
4	<p>ケーブルの引き寄せ</p> <p>1. ケーブルを下図の寸法位まで引き寄せて固定する。</p>  <p>2. 心線の取り出し</p> <p>ケーブルの知付溝からテープ心線を取り出し、全ての通過心線の中央にマーキングをする。(分岐する時の切断目印)</p>	<p>※テープ心線が知付溝より出ますので傷を付けないよう注意して下さい。 (特に踏み付けに注意)</p> <p>※テープ心線に傷を付けないよう細心の注意を以て行う</p>

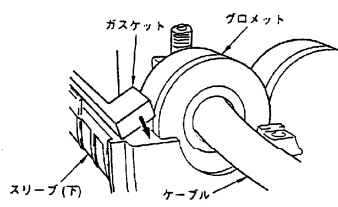
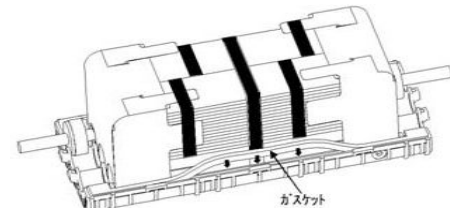
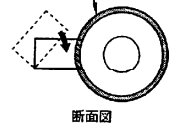
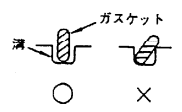
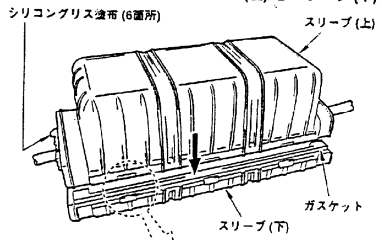
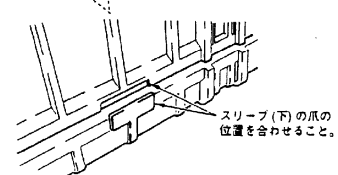
項目	作業手順	備考																																		
5	<p>識別チューブの挿入(スパイラルチューブ)</p> <p>1. 知付溝を2本半心線に巻き付ける。(ケーブルの両端)各溝毎に3ヶ所巻き付けます。(ケーブル両端と中心 下図参照)</p>  <p>2. ケーブルが100心以上の場合図のように二重に巻き付ける 各溝毎の識別方法は下表参照</p>  <table border="1" data-bbox="1344 869 1803 949"> <tr> <td>溝番号</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>チューブ色</td> <td>上</td> <td colspan="4">無し</td> <td colspan="5">黄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>下</td> <td>青</td> <td>黄</td> <td>緑</td> <td>赤</td> <td>紫</td> <td>青</td> <td>黄</td> <td>緑</td> <td>赤</td> <td>紫</td> </tr> </table>	溝番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	チューブ色	上	無し				黄						下	青	黄	緑	赤	紫	青	黄	緑	赤	紫	<p>※心線に傷を付けないように十分注意して下さい。</p> <p>※中心の識別チューブの長さ 上 : 15~20mm 下 : 50~60mm</p>
溝番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																										
チューブ色	上	無し				黄																														
	下	青	黄	緑	赤	紫	青	黄	緑	赤	紫																									
6	<p>スロットの切断</p> <p>スロットの中央をケーブルカッター等で切断する。</p>  <p>ケーブルのたぐり寄せが楽にできるよう、スロットを2~3回にわけて切断する。</p>	<p>※ケーブルをしっかり固定する。</p> <p>※切断時スロットがはね上がる場合があるので必ず両側を手で持って中心付近を切断する。</p> <p>※心線に傷を付けないように十分注意して下さい。</p>																																		

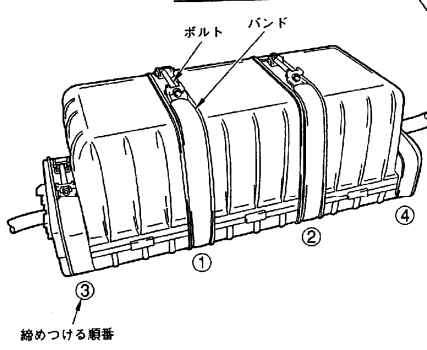
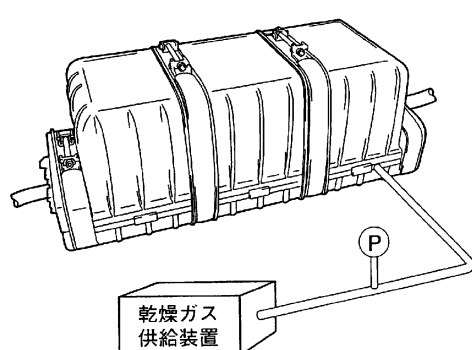
項目	作業手順	備考
7	<p>ケーブルのたぐり寄せ</p> <p>1. 下図のようにケーブルの片側をたぐり寄せる。 ケーブルをたぐり寄せると自然の燃の状態であることが出来る</p> 	<p>取り出した心線は、テープ等で束ねて下さい。 捻れが入らないように気を付ける。</p>
8	<p>スロットの切断とテンションメンバの口出し</p> <p>1. 下図の寸法になるように切断する</p> 	<p>※心線に傷を付けないように十分注意して下さい。</p>
9	<p>ケーブル把持金具の取付</p>  <p>1. テンションメンバ把持部にテンションメンバを挿入し、上図に示すような位置に把持金具を取り付ける。 注意：外部把持部の中心にケーブルがくるようにオニメピースを調整する。</p> <p>2. 各部の締め付けトルクは、ケーブル外被把持は $2\text{N}\cdot\text{m}$ ($20\text{kgf}\cdot\text{cm}$)、テンションメンバ把持部のボルトは $4\text{N}\cdot\text{m}$ ($40\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で締め付ける。</p> <p>3. ケーブルにケブラがある場合は、まとめてテンションメンバ把持部の側面ネジに巻き付け、トルク $4\text{N}\cdot\text{m}$ ($40\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で締め付け固定する。</p>	<p>※把持金具より露出している、テンションメンバ先端を、2号PVCテープなどにて、養生すること。</p> <p>※オニメジの向きに注意すること。</p>  <p>○ ×</p> <p>※締め付けトルクは規定値を必ず守ること。但し、特殊なケーブルで軟らかいケーブル外被の場合は、オニメ先端がケーブル外被に当たってから半回転締め付けた程度とする。</p> <p>※締め付け時の過大トルクは、ケーブル破損や部品破損の恐れがあるため、指定トルクを厳守するために締め付け終了前は、ゆっくと締め付けること。</p>

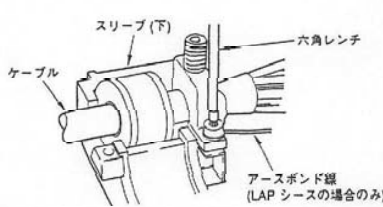
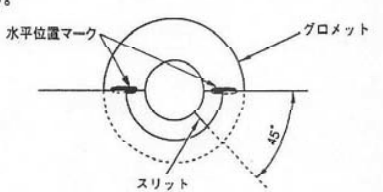

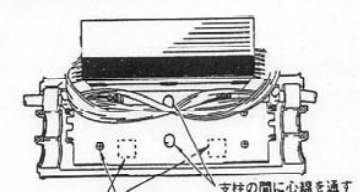
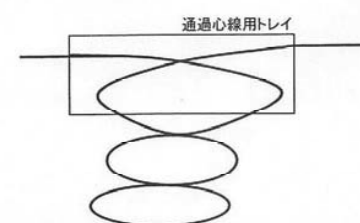
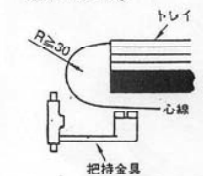
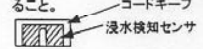
項目	作業手順	備考
10	<p>ケーブルへのグロメットの取り付け</p> <p>1. グロメットの内側全体(スリット接触面含む)に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 2. グロメットをケーブルに取り付ける。取り付け位置は下図のとおり。</p> 	<p>※グロメット(閉塞栓)・ガスケットの表面に、ゴミなどが付着しないよう注意すること。付着した場合は、アルコールなどにきれいに拭き取ること。</p> <p>※グロメットのスリットが、下に 45° の向きになるようにしておく。(9.4項参照)</p>  <p>※太径ケーブルの場合、グロメットの両端を引張り、スリットが密着するように取り付ける。</p> 
11	<p>スリーブ(上)の取り外し</p> <p>1. スリーブのバンド固定ボルトを弛め、スリーブ(上)を取り外す。</p>  <p>2. スリーブ中身の両端にある保護シートを取り外す。</p> 	
12	<p>ケーブルの取り付け</p> <p>1. スリーブ(下)のグロメット装着面に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 2. 把持金具の付いたケーブルをスリーブ(下)に取り付ける。ケーブルの導入位置は下図のとおり。</p> 	

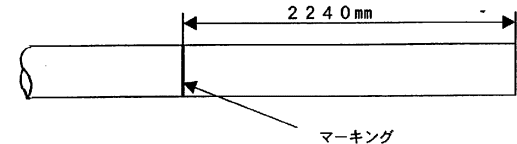
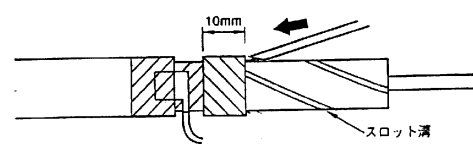
項目	作業手順	備考
2 1	<p>心線の融着接続</p> <p>1. 分岐ケーブルの心線を、トレイに仮収納をする</p> <p>2. 仮収納した心線をトレイから捻れが入らないように手前に持ってくる</p> 	<p>※分岐ケーブルの心線は一旦収納トレイに仮収納したほうが作業性が良い(未使用心線も仮収納する)</p> <p>※心線の収納が早く出来るよう、下図収納方法を参考に仮収納して余長を決めてから融着接続して下さい。</p>
2 2	<p>心線の収納</p> <p>1. <u>トレイ両端からの心線を収納する場合。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>(A) 巻数 3回の場合</p> <p>① 補強スリーブを1回転させ図の様にクロスした状態で捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>② 上の状態から図の様にクロスさせ輪を3つ作る。</p>  <p>③ いちばん下の輪を内側に返し、上の輪と合わせる。</p>  <p>④ 下の重ねた輪を内側に返し上の輪と合せ完了。</p>  <p style="text-align: center;">完了</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(B) 巻数 2回の場合</p> <p>① 補強スリーブをそのまま固定し、図の状態では捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>② 上の状態から図の様にクロスさせ輪を2つ作る。</p>  <p>③ 下の輪を内側に返し上の輪と合せ完了。</p>  <p style="text-align: center;">完了</p> </div> </div>	

項目	作業手順	備考
2 2	<p>2. <u>トレイ片端からの心線を収納する場合。</u></p> <p>(例) 巻数、左側3回、右側2回の場合</p> <p>① 補強スリーブを1回転させ、図の状態では捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>② [左側] 輪を3つ作る。 [右側] 輪を2つ作る。</p>  <p>③ [左側] いちばん下の輪を内側に返し上の輪と合わせる。 [右側] 下の輪を内側に返し、上の輪と合わせる。</p>  <p>④ [左側] 下の重ねた輪を内側に返し上の輪と合わせる。 [右側] 下の重ねた輪を内側に返し上の輪と合わせる。</p>  <p style="text-align: center;">完了</p> <p>3. 段積みトレイをマジックテープで固定し、保護カバーを取り付ける。</p> 	<p>※心線の曲げ半径がR\geq30 mmとなるようトレイに導入すること。</p>  <p style="text-align: center;">保持金具</p>

項目	作業手順	備考
2 3	<p>スリーブガasketの取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガasketの端面(グロメットに接するところ)に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 2. ガasketの両端部をスリーブ(下)の溝にそれぞれはめる。  <ol style="list-style-type: none"> 3. ガasketの中間部をスリーブ(下)の溝にはめる。 	<p>※ ガasketの両端部がグロメットに確実に接するよう、倒しこんで取り付ける。</p> <p>シリコングリス塗布(円周)</p>  <p>断面図</p> <p>※ ガasketの中間部が倒れないよう長手方向に溝にはめる。</p>  <p>※ グロメット(閉塞栓)・ガasketの表面に、ゴミなどが付着しないよう注意すること。付着した場合は、アルコールなどできれいに拭き取ること。</p>
2 4	<p>スリーブ(上)の取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スリーブ(上)のグロメット装着面にシリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 2. ガasketがかみ込まないようスリーブ(上)をスリーブ(下)にはめる。  	

項目	作業手順	備考
	<ol style="list-style-type: none"> 3. バンドでスリーブを締めつける。※ 架空仕様の場合は、別紙2参照のこと。締めつけトルクは、$4\text{N}\cdot\text{m}$ ($40\text{kgf}\cdot\text{cm}$)とする。中心から外側に向かって、番号順に数回に分けて均等に締める事。 	<p>※ スリーブガasketが溝にきちんと入っているか確認しながら締め付ける。</p> <p>※ 左図①、②を締めた時点でスリーブガasketのかみ込みのないことを確認し、その後で③、④を取り付ける。</p> <p>※ 電動ドライバでの締め付けは一気に締まる可能性があるため、使用しないでください。(ゆるめる時は使用可)</p>
25	<p>ガスフラッシュテスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乾燥ガス供給装置からの接続部と、クロージャのガスバルブと継手で接続し、39.2kPaの圧力を供給しながら、点検液をクロージャル部に塗布して漏洩箇所のない事を約10分間確認する。(下図参照)。 2. バルブ継手を取り外し、ガスバルブ部に点検液を塗布し漏洩の無い事を確認する。 3. 点検終了後、点検液を真水等で洗い落とす。 	<p>※ 再相立時のフラッシュテストにおいて、漏洩が数回連続して発生した場合、グロメット(閉塞栓)・ガasketを新品に交換してください。</p>

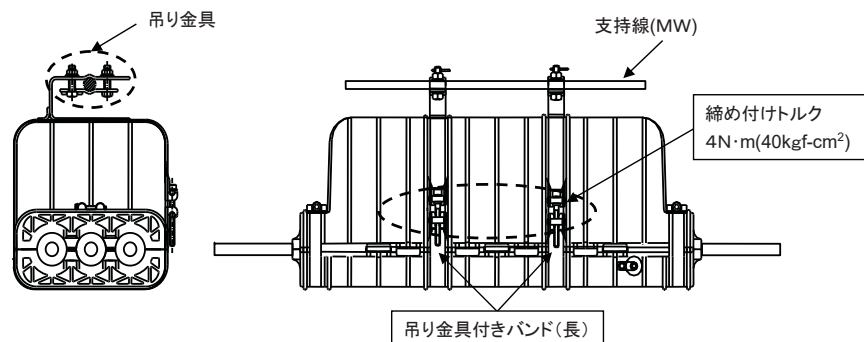
項目	作業手順	備考
	<p>3. 把持金具の固定ボルトをトルク4N・m(40kgf・cm)で締める。</p>  <p>4. グロメットのスリットが下に45°の向きになるようグロメット位置を修正する。</p> 	<p>※グロメットにゴミなどが付着しないよう、スリーブ(上)を取り付ける寸前まで、グロメットを養生すること。</p> <p>※太径ケーブルの場合、グロメットの両端を引張り、スリットが密着するように取り付ける。</p> 
13	<p>通過心線トレイへの収納</p> <p>1. 下図の黒塗りのトレイに8の字収納する。</p> <p>2. 通過心線を2本の支柱の間に通過しトレイに導入する。</p>  <p>※浸水検知センサ取り付け位置 ※心線導入方法、別紙参照 通過心線収納は下図の様に、ケーブルの撓り等を利用して8の字収納します。</p>  <p>※分岐する心線等が既に分かっている場合は、該当のテープ心線にテープ等で目印を付けておいて下さい。(取出し易くする為)</p>	<p>※心線の曲げ半径がR≧30mmとなるようトレイに導入すること。</p>  <p>※金具固定ネジを緩めた後、再度締め付ける際は、本体のインサートナットを破損しないよう、過度に締め付けないこと。</p> <p>※(浸水検知センサ取付のみ)センサを挿んだコードキープを付属粘着テープにてスリーブに固定する。貼り付け箇所はアルコールなどで拭き取ること。</p> 

項目	作業手順	備考
14	<p>分岐ケーブルの切断と外被の剥ぎとり</p> <p>1. 下図寸法でマーキングし外被を剥ぎ取る。</p>  <p>2. マーキング位置で外被を剥ぎとる。</p> <p>3. 外被剥ぎ取り際に1号保護用PVCテープを2回程度巻き付ける。</p>	<p>※マーキングは白マジック色テープ等で行う。</p>
15	<p>アースボンド線の取付</p> <p>2項の1～4と同じ</p>	
16	<p>ケーブル外被の研磨・清掃</p> <p>3項の1～2と同じ</p>	
17	<p>スロットの切断とテンションメンバの口出し</p> <p>8項と同じ</p>	
18	<p>識別チューブの挿入</p> <p>1. 添付の識別チューブ(スパイラルでない方)をトレイ入口迄の長さで切断し、下図のように挿入する</p>  <p>2. 挿入後1号保護用PVCテープを巻き付ける(上図参照)</p>	<p>※チューブの長さ 約560～600mm チューブの挿入順 1. 青 2. 黄 3. 緑 4. 赤 5. 紫</p> <p>※チューブが動かない程度に緩く巻くこと</p>
19	<p>ケーブル把持金具の取付</p> <p>9項の1～3と同じ</p>	
20	<p>ケーブルグロメットの取付</p> <p>10項と同じ</p>	

架空設置方法

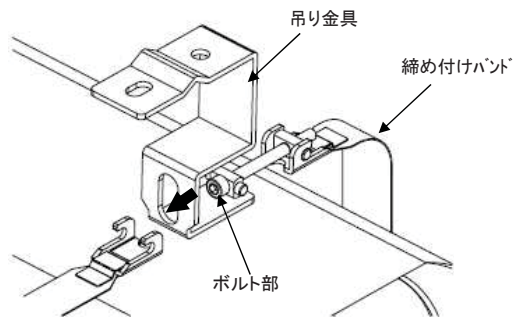
① 締め付けバンド一体型の吊り金具の場合(FH3 吊り金具)

- (1) 添付の吊り金具付き締め付けバンド(長)をスリーブに取り付ける。 下図参照
締め付けトルク 4N・m(40kgf-cm²)
- (2) ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (3) 吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。
締め付けトルク 4N・m(40kgf-cm²)以上を目安とする。

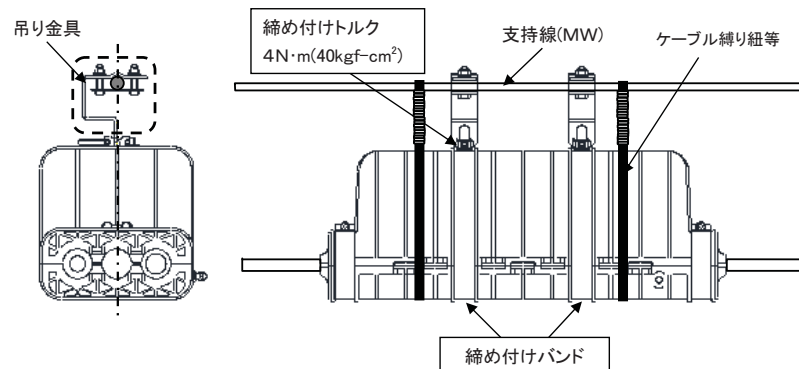


② 締め付けバンドと別体型の吊り金具の場合(FH3 バンド組込型吊り金具)

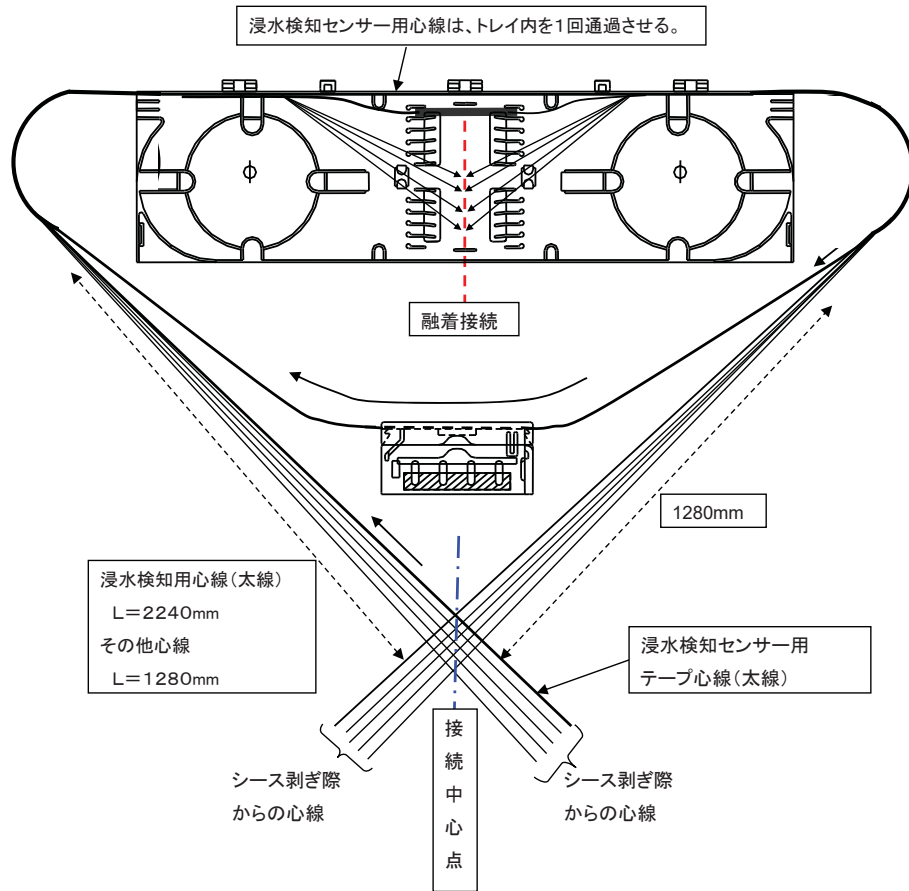
- (1) 締め付けバンドのボルト部を添付の吊り金具の長穴に通し、スリーブに共締めする。 次ページ図参照
締め付けトルク 4N・m(40kgf-cm²)
- (2) ケーブル縛り紐等でクロージャとメッセンジャワイヤをしっかりと縛り固定する。
- (3) ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (4) 吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。
締め付けトルク 4N・m(40kgf-cm²)を目安とする。



注意: メッセンジャワイヤ固定部とクロージャの中心がなるべく同じ位置になるように取り付けて下さい。



浸水検知センサー用テープ心線の導入図(例)



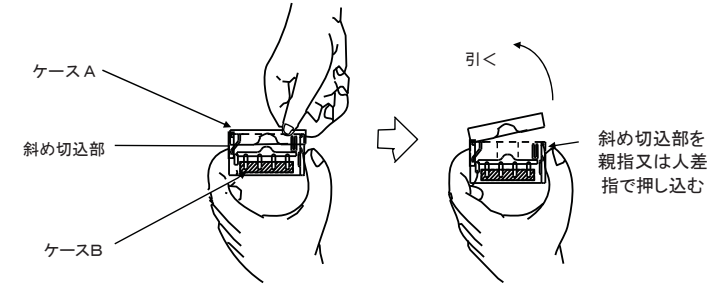
ETK9943038

浸水検知センサー取付け方法

住友電気工業株式会社

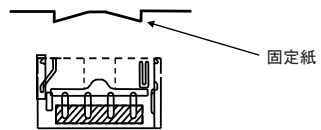
1. ケースA・ケースBの外し方

図のように、浸水検知センサーのケースBの両わきを指で押さえケースBの端を親指又は人差指で斜め切り込み部を押し込む様にながら、もう一方の手で押し込んだ側のケースAを引いて、ケースA・ケースBを分離します。(下図参照)



本図は親指側を押し込んだ例

分離後、中に入っている固定紙を取り除いて下さい。(下図参照)



2. 浸水検知センサーの取り付け

ケースAとケースBの間に浸水検知用テープ心線を挟み込み、ケースAをケースBに装着します。

(装着時にカチッと音がします)

この時挟み込んだテープ心線が「捻じれていないか」また「ケースBの溝」に確実に入っているか確認して下さい。(下図参照)

装着が終了しましたら、ケースAとケースBが確実に嵌合しているか確認して下さい。

(原則として、浸水検知センサーにはテープ心線をばらさずにテープ心線のまま挟み込みます。)

